茨城小の幼電詩

つくば (相談電話) 029・855・1000



水戸 (相談電話) 029·350·1000



2019年12月 第**100**号

対談:誰もが安心して暮らせる社会を目指	して	
〈連載第2回〉	2~	4
機関誌 100 号発行に寄せて		5
機関誌 100 号記念特集	6~	7
活動報告		8
コラム/受信状況		C
ご支援ありがとうございます	10~	1

筑波連山南東部の南麓に位置する土浦市小野地区には、平安時代の絶世の美女、小野小町の伝説が伝わります。梨や柿など果物の産地でもあり、秋の風景はことさら郷愁を誘います。大きな水車が目印の小町の館では、観光案内や土産品のほか、常陸秋そばも楽しめます。

連載第2回「誰もが安心して暮らせる社会を目指して」

対談:杉山文野、半田一郎



杉山文野

東京レインボープライド 共同代表理事 NPO 法人ハートをつなごう 学校代表

この数年、社会でのLGBTに対する理解や対応は大きく変化してきた感がありますが、誤解や知識不足からくる偏見などがなくなったわけではありません。前号の対談第1回では、セクシュアリティの問題は生活のすべてにかかわってくること、法制化が社会の理解を広げるうえで果たす役割などが話題になりました。対談はさらに、社会の中で安心して過ごすことの意味、そのためには何が必要か、という話題に移っていきます。それはLGBTという「くくり」を超えて、すべての人にあてはまることではないでしょうか。

《世の中には知らないことがある》

聞き手

半田一郎

子育てカウンセリング

リソースポート代表

カウンセラー

杉山 僕も知らないことの方が多いと思いますが、知らないうことがある、ということ思ったおこうと思っておこうと思っています。限られた環境の中で得た知識だけで判断らない。自分は知らない。同



性愛者なんておかしいだろ?」となる。そう思ってしまうのは、異性愛者の中で生まれ育ってその情報しかなくて、同性愛者のことを知らなかったというだけのことなのに。そういう意味でも「だれにでも知らないことがたくさんある」ということは共有されるほうがいいと思います。それから、「こうあるべき」という押し付けは結局、自分の首を絞めてしまうと思うんです。女性はこうあるべき、社会はこうあるべき、社会はこうあるべき、みたいに。むしろ、「こうありたい」という、お互いに応援するような関係性のほうがだれにとってもいいんじゃないかと思いますね。

半田 最近注目されてきたこともあって、LGBT などについて「知っておかないとまずい」という 雰囲気があるように思います。知らないことで不安を感じて不自由になっている人たちもいるのではないでしょうか。たとえば学校でも、LGBT かな、という子がいても、知らないからどうしていいかわからないということがよくあります。でも知らないことがあるのは当たり前で、全部を知る

ことはできない。そこが壁になって、自然な人と 人との関わり合いも阻害されてしまっている面も あると感じています。

(スタッフ)

「人としては同じ」という感覚を持てたら違うのでしょうか?

杉山 「同じ」を使うのか、「違う」を使うのか。 すぐに「人間だから同じでしょ」という結論を出 してしまうのは、僕は乱暴で危ないという気がし ます。というのは、人ってみんな違うじゃないで すか。「同じだからいい」ではなくて、「違うから いい」んです。「違うけどいいんだよ、なぜなら みんな同じ人間だから」と最後に「同じ人間」に 戻ってくるならいいんですけど。

《「わかりあえる」という思い込み》

半田 話を聞くと言うことに関連して言えば、使っている言葉の意味だって、一人一人違いますからね。同じと思っているけれども、違うんですよね。たとえば、杉山さんの「怖い」と僕の「怖い」は中身が違うので、話を聞いて「ああ、怖いのね」と思ったらだめなんです。

杉山 同じ日本語を話していても、同じイメージを持っているとは限りませんからね。たとえば、「いいレストラン」という言葉で、ある人はファミレスを思い浮かべるかもしれないし、別の人は超高級レストランかもしれない。「同じ日本語を使っている」イコール「同じことを言っている」ではないということは、きちんと理解しておいた方がいいと思うことの一つです。

人と人が完全にわかり合うのは無理だとして も、わからないからこそ面白い、わかりたい、と 思う気持ちは大事なのだと思います。わかったつ もりでいるのが一番怖い。

今、親子関係のトラブルがとても多いでしょう。 血が繋がっているから、親子だから分かりあえる と思い込みすぎているのも、苦しくなる原因の一 つではないかと思っています。僕は自分がカミン グアウトして親ともめた時にストンと納得できた のは、親とはいえ他人なんだ、と思えた時なんで す。親もいい意味での他人で、それぞれの人格、 それぞれの人生がある。親子というのは、その中 でたまたま同じ時間を共有する関係性を持つ、と いうこと。ならばしっかりとコミュニケーション を取って、互いを尊重していくことが大事なんだ と思ったときから、関係がスムースになったんで すね。

今回自分にも子供が生まれましたが、泣き止まないし、おむつ替えなきゃいけないし、ミルクも飲ませないといけない(笑)。これまでの日本の男性みたいに、子供が生まれても世話は奥さんに任せて外で仕事して帰りは夜遅く、子供の顔見るのはたまの週末だけ、それで子供がなつかない、と言っても無理な話なんです。一緒に寝て、起きて、おむつ替えて、お風呂入れて、と家族として過ごす時間、コミュニケーションをとることで、子供もなついてくれるんですよね。

また、わが子だから愛せるはず、というのも変ですよね。手伝ってくれる人もなく一人で子育てして疲れきっている時に子供が泣き止まなかったら、この子がいなかったらどれだけ楽かと思ってあるでしょう。だけど、血の繋がっても全をするとしまう。それは個人のせいではなくて、社会のシステムとかの問題で、現代の大だなは悪題でしょう。親子でも他人なんだ、他人だからコミュニケーションを取らないと親子になれないかと、今回思いました。

《場所づくり》

半田 なるほど。最初に、場所作りとおっしゃっいましたが、家庭も場所ですし、国も場所ですね。違いのある人たちが違うことを前提にして安心して過ごせる小さな場所から、より大きな場所まで、もしかして杉山さんの頭の中ではつながっているのでしょうか。

杉山 手始めは小さな店でした。少なくともその中はセイフティな空間です。また、たとえば新宿二丁目のように、そういう店が集まっている地域では男性同士が手をつないで歩いていてもおかし

くはない。やがて渋谷区で始まったパートナーシップ制度は、世田谷区、沖縄、宝塚、と広がっていきました。ただ、時間軸についていえば店というのは営業時間が限られています。パレードは打ち上げ花火みたいな、1日だけのイベントです。24時間365日安心して集える場所は1つの店では無理で、地域や社会を巻き込んでいく必要があると思っています。

半田 24 時間 365 日というのは、いのちの電話のキャッチフレーズでもあるんです。いのちの電話と杉山さんたちの活動は立っている場所も違うし、目指している方向も狭い意味では違うかもしれませんが、大きな視野で見ればたぶん同じ方向に進もうとしていると、僕は勝手に思ってちょっとうれしくなりました。いのちの電話が 24 時間電話をとっているからといって、24 時間人を救えるわけではありません。つながらない電話が 24 時間でもんがご自身の活動を小さな場所から、そして時間といきでいきす。僕は、杉山間的にも広げていきたいと考えていらっしゃることに感激しました。

杉山 パレードは年に1回、より多くの人に知ってもらうためのものですが、一方で飲食店の経営などで日々の場所を提供する。どちらがいいとか悪いとかでもないし、どちらかだけでもない。それを自分のできる範囲でやっているということですかね。

《見える存在にする大切さ》

半田 「いのちの電話は掛けてもなかなかつながらない」と言われてるんですけど、「自分以外にも掛けてる人がいると思うと少し救われる」という人もいるんです。「杉山さんのように考えている人がいる」と知ることで、知るだけで少し救われる人もいるかもしれません。

杉山 日本という国は他の国に比べて暴力的なことは非常に少ない国だと思うんですが、反対に感 分で自分を追い詰めてしまうことが多いてももいています。僕がパレードの先頭に立っていてするというでは、同性婚は法律で認められている一方で年間に数百人のトランスジェンダーが、たださらイールであるという理由で暴力にさらインジェンダーであるという時間のようかはではありません。ではあからさまな暴力は、ゼロとは言いたのと追いつめられてしまう。あからさまにできまか、見て見ぬふりをされると何と戦っているのか

がわからなくなるんです。当事者も、自分さえ黙っていれば生活できないこともないので、わざわざリスクを冒すこともしない、けれどなんか息苦しい。そう思っているうちに何かがきっかけになって、自死まで追い詰められてしまうということもあるかもしれない。そういう息苦しさは日本独特ではないかと思うことがあります。

半田 なるほど。暴力の対象になる、ということは、少なくとも認識されているということですからね。

杉山 そうです。

半田 わからないように排除されている、というのは対象にすらされていないということで、存在そのものの否定ですよね、この大変さは大きいでしょうね。

杉山 もちろんいいことではありませんが、セクシュアルにマイナーであることが犯罪とされている国は、逆にそういう存在がいるということは認めているということです。日本では法律としてあるのは性同一性障害特例法だけです。これは、LGBTで言えば、T(トランスジェンダー)に関わることですね。でもL、G、Bに関する法律は一切ないんです。なのでそれも大きな課題です。

可視化ということは、当事者が可視化されることだけではなく、そうした人たちにフレンドリーな周囲の人たちが可視化されることも大事なことなんです。「そんなことは当たり前で、わざわざ口に出すなんてカッコ悪い」という人もいますが、理解がある人こそ言ってほしいんです。

半田 言わなきゃいけないんだ。

杉山 当事者だけでなく、フレンドリーな人も見 えないといけないんです。携帯の裏やラップトップ にレインボーシールを貼る、これだけでもいいん です。クローゼットの(カミングアウトしていない) 当事者は、初対面の人と会う時、相手にそのこと を話しても大丈夫だろうかと常に探っています。 少しでも差別的な発言を感じると、やはりこの人 には言えないと思ってしまう。でもレインボーの ものがチラッと見えたら、「この人には言っても 大丈夫なんだ」と思える。言うか言わないかは別 としても、「そこにいる」ことを理解してくれる 人だと感じられる。その安心感は全然違います。 半田 なるほど。「きちんと表現する」ことの大 切さを改めて感じますね。自分のことで恐縮です が、たとえばスクールカウンセラーの相談室に 「LGBT フレンドリーです」とわかる表示があれ ば、それで安心する子がたくさんいるかもしれま せんね。そういう点から、聞いてみたくなりまし たが、杉山さんの考える「安心安全な場所」とは どんなものでしょうか。

杉山 僕らの感覚からは「否定されない場所」でしょうか。何か言っても否定されない、つまり「存在を否定されない」ということですかね。「僕はこう思うんだ」と言ったら、「いや、それ違うよ」ではなく、「そういう意見もあるね」と。自分の意見を主張するのに、必ずしも相手を否定する必要はないと思うんです。「僕はこう思うけど、あなたはそう思うんだ」、それだけのはずなのに「いや僕はこう思うんだからそれは違う」と言われると、攻撃はこうとが多い。そういうふうに言われると、攻撃的と感じる人もいますよね。まずはどんな意見を言っても否定されないということが大切。

半田 これまで存在そのものが「いない」ことにされてきた人たちだからこそ、存在を否定されないということが大切なんですね。

杉山 否定されないということと関連して言えば、僕は、死にたいと思う気持ちも大事にしたほうがいいと思っています。死にたいと思っちゃいけない、というプレッシャーは余計につらいと思います。僕自身も若い頃、ほんとうに死にたいと思っていた時期があります。でも今という時代は、「生きてりゃいいことあるよ」なんて無責任な言葉は言えない時代だと思います。複雑で、出口なんかないように思える現状もあるでしょうけれど、一方で「死にたいと思っていたやつが、今は楽しく生きている」という現実もある。その事実だけは知っていてほしいと思います。ひとつのメッセージとして。

半田 その事実は力強いメッセージだと思います。今日は、本当にいろんなお話を伺うことができました。杉山さんが今までなさってきたことは、いのちの電話の活動と根っこのところではつながっているんだろうな、と思いました。今日は、お忙しい中、本当にありがとうございました。 杉山 いえいえ、こちらこそ、ありがとうございました。

杉山文野氏公式ホームページ(New Canvas) http://fuminos.com/





茨城いのちの電話 理事長・後援会会長 幡 谷 浩 史

いのちの電話運営等に携わって早や30年余り、沢山の思い出の中で初代理事長大須賀発蔵先生と の出合いが一番強烈であります。戦後復興から15年目の昭和35年水戸市内での事でした。軒並み会 社訪問(外販営業)での初対面でありました。ご尊父の大須賀雲八会長の後継者としてパートナーシャ フト経営の実践を目指した製材工場経営のかたわらで、折しも戦後復興の振興策として「茨城木材相 互市場」の創立運営の多忙な時期であったにもかかわらず、「心」の大切さを私たちに諭す様な話し方· 仕草は、包容力と併せあのやさしい眼差しが走馬灯の如く浮びます。いつも「心」の安寧を願ってい る方であり、これら多くの雰囲気をお持ちの人格者でありました。一方で社会福祉法人の設立には筑 波大学稲村博教授と東奔西走、資金集めと併せ組織づくりと基本である相談員指導育成等々に大変な ご苦労をなされたと仄聞しており、特に基礎基金下限 5.000 万円以上目標 1 億円等創設にあたっては 筆舌に尽くしがたいご苦労がありました。仏教は変化せずに同一で常にあり続ける自分というものは ないとします。先生の「いのち分けあいしもの」を再読したいと思います。10周年記念号に寄せら れた先生のお言葉です。「昼夜を分かたぬ担当、受話器を握る一瞬一瞬自己の存在意識を問われ、自 己の無力を悲しむなど、苦しい体験がどれほどあったことでしょうか。事務局はじめ運営に当たる人 たちも、多くは未経験な事象との遭遇であり、迷いや葛藤を乗り越える苦悩の日日でありました。し かしそうした体験を歩みぬいた今、ふと気づいてみると、苦しい陰に取り組んだからこそ届けられて いる、味わい深い光を実感するのです。思えば、現代社会の矛盾のなかで、生きる苦しみを引き受け、 孤立した心を私たちの電話に寄せてくださった方たちこそ実は私たちを育ててくれた尊い存在でも あったのです。」私たちはそれら先人の想いを遂行すべく更なる発展に答えて行きたい。



広報機関誌【茨城いのちの電話】第100号発行に寄せて

茨城いのちの電話は1985年6月1日に開局しました。

端を発したのは、茨城県在住の主婦7名が、孤独に悩む人々と電話をとおして心に寄り添う、を理念とした民間のボランティア団体による電話相談機関として、茨城いのちの電話の設立を提唱したことによります。大須賀発蔵先生、稲村博先生のご尽力はもとより、その理念に賛同された多くの先生方の熱意により礎を築き、今日に至っています。

併せて、1985年6月に広報機関誌【茨城いのちの電話】創刊号が、そして、時を重ねること34年、2019年12月に第100号が発行されました。各号が配布されるまでには企画立案、編集、さらに校了、印刷の工程を経ています。歴代の広報委員の皆さんは相談現場に関わりながらその任にあたっています。

ところで、いのちの電話のハード、ソフト両面の環境整備維持には財源が必要不可欠です。筆記用 具をはじめ、部屋の賃貸、備品、光熱、さらには、相談員の養成や相談員の質向上のための研修、そ の他があげられます。お金は天から降ってくる?さに、あらず。財政基盤の多くは、いのちの電話に 賛同する後援会会員による会費、寄付金などの浄財に支えられています。広報機関誌の後半頁には、 皆さんに感謝の気持ちを表す氏名が掲載されています。そして、より多くの人たちに後援会に加入し ていただけるよう、すそ野の広がりを願っています。

表紙に目を移しますと、絵画や写真、いのちの電話の心に通じる詩、ときには、書道に心得のある相談員の作品が載ったこともあります。中頁はどうでしょうか。メインですから、その道の専門家による寄稿、対談など、いのちの電話の精神が皆さんに浸透していただける記事になるように工夫されていることが伝わります。読者の一人として付言しますと、編集後記も読みどころです。

機関誌第100号が手元に届きました。と同時に、次なる第101号発行に向けて委員の皆さんは始動しています。そして……、今この時も、孤独に苦悩する人々からの電話が鳴り続けています。

(M.S.)



機関誌 100号 記念特集

15 名、40 代 31 名、50

1985 年 6 月 1 日、 茨城いのちの電話の開局と時を同じ くして、機関誌の創刊号は発行されました。

それから35年近い歳月が過ぎ、今回100号を発行する運びとなりました。重ねると厚さ4センチメートルにもなるこれまでの機関誌には、私たちの活動はもちろん、いのちをめぐるさまざまな思いや社会情勢が記された貴重な資料となっています。

その内容は多岐にわたり情報量も膨大で、そのすべてをここでお伝えすることはできませんが、100号の発行を記念して、主要なトピックを拾い上げつつ、茨城いのちの電話とその機関誌のあゆみをたどります。

創刊から5号まではB5版8ページの青一色刷で、発行は1985年6月、同11月、86年4月、87年3月、同9月、と不定期でした(写真1)。それぞれ開局までの経緯や、いのちの電話の意義、海外の電話相談などのテーマで大須賀先生、稲村先生をはじめ開局に努力

さ稿談ど当み今い会もが真れのほよ載気の告されるさ気の告された。 るさ気の考す加れらまが 気が者、 写まれ座氏談の相のおけるがある。 のまるがまれをしたが、 の相のはできなが者、 写まれを氏談として、 ないまない。

第1期生は71名が 認定され、年齢構成 は20代8名、30代 | 1913年4月1日 | 19

写真1

代13名、60代4名と、今とはずいぶん違うという印象です。居住地区は県南、県央、県西が多いものの、県北、鹿行、千葉県からも10名近い相談員がつくばまで通っていました。開局当初は毎日8時間、月700件程度の電話を受け、85年度の寄付・募金総額は13,595,385円と報告されています。1986年11月には後援会も発足しました。

第6号からは黒一色刷となり、表紙のタイトルデザインや写真が掲載されるなど、98号までの構成に近い

ものとなりました(写真2)。発行は不定期ではあるものの、この頃からほぼ年3回の発行となりました。

当初 12 時から 20 時までの 8 時間だった活動も、86 年 6 月 1 日から 10 ~ 22 時の 12 時間体制、87 年からは 9 ~ 22 時の 13 時間体制に、1988 年からは 3 台の電話で相談を受けるようになり、1990 年 6 月の開局 5 年目からは



98号

24 時間体制となって月間 $2,100\sim 2,600$ 件、開局からの 総受信件数は 10 万件を超えました。そして 1992 年 4 月 1 日には、水戸分室が $13\sim 17$ 時の間での活動を開始しました。

このころの機関誌では、常時枠としての特集は組まれていなかったようですが、折に触れ「家族とは」「性と生」「心を病むとき」「青少年のこころ」「中高年の







写真3 写真4

悩み」などが取り上げられています。

1995年、茨城いのちの電話は開局10周年を迎え、 29 号はその特集号ですが、白黒8ページで特別な体裁 にはなっていません(写真3)。31 号では同年11月に つくば市で主催した全国研修会を取り上げ、12ページ の特集号となっています(写真4)。29号には茨城いの ちの電話副理事長でいらした一橋大学教授(当時)の 稲村博先生が、青少年からの相談の減少について寄稿 していらっしゃいます。開局当初30%を超えていた10 代からの電話はこの頃10%を切り、それから四半世紀 経った今も、10代からの電話は決して多くはありませ ん。稲村先生はその原因の一つとして、今の大人たち が「概してやさしく物わかりがよく…早期対応の実を あげようと奔走する」傾向を指摘していらっしゃいま すが、SNS が若者の間であたりまえの手段となるずい ぶん前から、こうした傾向はみられていたようです。

2002年夏号で、機関誌は50号という節目を迎えま

した。そのためか、 これまでとは違う変 形横長のサイズで発 行されています(写 真5)。この号にはつ くば事務局の近くで 医院を開業し、茨城 いのちの電話の理事 も務められた室生勝 先生が、広報委員長 の署名入りで編集後 記を書かれています。



写真5

その後、また元のサイズに戻りましたが、なぜか 2003 年に再度同サイズで発行されました。

2004年夏、機関誌は A4、8ページとなり、その後 2018年12月発行の98号まで、デザインや記事の構成 はほぼ変わっていません。2005年6月発行の59号は

開局 20 周年記念号で表紙裏表紙カラーの 12 ページ仕 立てで、この号から 63 号まではタイトルのバナーが変 わりましたが(写真6)、64号からまた元のデザインに 戻っています。何か理由があったのでしょうか。2008 年67号では、表紙に八千代町で絵手紙を教えている猪 瀬さんの作品が掲載され(写真7)、この号と、25周 年記念の2010年7月発行74号はカラー表紙での発行 です(写真8)。2015年30周年記念号(88号)は支援者 一覧以外はすべてカラーで発行されました。

表紙には写真が使われることが多かったようです が、時に絵画を交え、詩や俳句、短いエッセイなどが 添えられ、歴代編集者の工夫がしのばれます。95号か ら98号までは、「茨城いのちの電話の活動を社会に伝 えるとしたら、あなたはどのような言葉で表現します か」という問いかけに相談員の方々から頂いた言葉の うちいくつかを、これも一人の相談員による書で掲載 しました。特に最後の「言葉で放せることがある」に は、その解釈をめぐって、また相談員としての想いな ど、大きな反響がありました。

そして、2019年度の99号からは、読みやすさやア ピール度を高める目的もあり、表紙を含む一部がカ ラー化されました。

茨城いのちの電話の機関誌では、さまざまな問題を 抱えて苦しんでいる方々の理解に少しでも役立てること を目的として、高齢者、ひきこもり、家族と社会、こど もの"死にたい"、東日本大震災を受けての被災者の心 のケア、孤独、認知症、インターネット相談、大規模災 害とメンタルヘルス、児童虐待、性的マイノリティなど の特集を組んできましたが、この特集は全国のいのちの 電話の機関誌としては、かなりユニークなものです。特 集のテーマを眺めていると、結局のところ人の悩みはど の時代でもそれほど変わりはないのだ、という気もしま すが、つらい思いを抱えて日々を過ごしている掛け手に 寄りそうことを身上とするいのちの電話の活動を少しで も理解していただくために、これからもさまざまな企画 でお届けできればと思っています。







後援会バザー まつりつくば & 前川林業展示即売会

ことのほか暑さの厳しかったこの夏でしたが、8月24日につくば市のセンター広場で開催さ れた恒例の「まつりつくば」に後援会からもバザーの出店をいたしました。

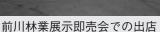
また、11月10日には小美玉市にある株式会社前川林業 (ホームページ: http://www.maekawa-f. com)の展示即売会にも出店させていただきました。

バザーには野菜、米、食料品、衣料品、雑貨、手作り品など、たくさんの献品をいただきまし た。事前の値付け作業をはじめ、当日の荷物の運搬、会場の準備、販売などにも、後援会理事、 OB、研修担当の先生方や筑波大学の学生さんをはじめ、多くの方々に協力していただきました。 おかげさまでまつりつくばでは 159,855 円、前川林業展示会では 192,132 円

の売り上げを挙げることができまし た。会場を提供して下さった前川林 業さん、準備や運営に力を貸してく ださった方々、そして買物に来てい ただいたみなさまに心より感謝申し 上げます。売り上げは私どもの活動 に大切に使わせていただきます。

どうもありがとうございました。







まつりつくばにて

2019 年度 厚生労働省補助事業自殺防止 公開講座

茨城いのちの電話は、8月10日、2019年度の厚生労働省補助事業自殺防止公開講座として、 諸富祥彦明治大学教授による「子どもの生きづらさに耳を傾ける―自殺防止のために―」を開催 いたしました。

夏休みが終わる時期に子供の自殺が増えるという最近の状況を踏まえ、特に学校の先生、相談 業務関係者、保護者の方々を念頭に開催したものです。今回はインターネットを通しての参加申 し込みを試験的に行いました。当日は187名の参加があり、先生の巧みな話術に会場は湧き立ち、 熱気を帯びた雰囲気の中で閉会しました。

参加者からは、参加型の講演で話の内容がすんなりと入った、わかりやすかった、子供と向き 合うときの参考にしたい、などの感想をいただきました。

> 2019 年度厚生労働省補助事業 茨城いのちの電話公開講座

「働く人のメンタルヘルス|

講 師: 大塚泰正氏(筑波大学准教授)

日 時: 2020年2月29日(土) 14:00~16:00 場所:つくばイノベーションプラザ 大ホール 申 込:右のQRコードよりお申込み下さい

入場料 無料



200229 公開講座 QR コード https://www.kokuchpro.com/event/iid200229/



きれいは、きたない価値観

価値観、人に目標と幸せとそれらの破壊を与えるもん。ある人はそれに命をかける。テロのドキュメン タリーで狂信的というよか屈託ない笑顔の魅力的な人はトラック自爆テロに向かった時の歓喜を語る(直 前中止命令)。死後アラーに褒められ、いずれ妻子とも天国で再会と実感する。信じるレベルじゃない。 神を信じる人は疑ってるから、だって実感できる水を信じるとは言わんじゃろ。価値観なんてエベレット のようにキリスト者から無神論者に変わりうる程度のもんとは微塵も思わない。事実としては変わりうる んに絶対・真理と思い込んじまう人がいる。盲目な程、幸せが増す。これがないと何で生きるのかもわか らんくなるものなんに絶対じゃない。トランプはいくらでもISに変わりうる。ありゃま、何を目指した らええんや!その時々の価値に邁進するもありか?どうせ個人は、複数人格からなるんやから。かつA価 値を持つ人に対して反A価値の人は必ずいて対立しあう。それが政治や戦争になる。人は争いあって勝つ ことの快感を捨てられんがために無意識に対立価値を作り続けるんかと疑ってもみる。ほやからオリン ピックつう争いの祭典もある。平和の祭典言うてごまかすけど。これらに対し寛容と説く言葉の意味すら 理解せん人がいる。A神が全世界を作る、B神が全世界を作る。これらを両立する集合はない。寛容のお 題目だけじゃ不寛容を越えるものにはならんやろう。笑顔の彼を敵とみなしても仲良くしても答えには到 らん。人以外の動物は本能という対立のない価値を持つから矛盾はねえ。人は岸田秀言うように(億年単 位で生じた)本能が壊れて(食い方もわからずに成人病になりセックスの仕方も学ぶ)言葉を作り(又は 鶏と卵のように逆か)言葉による(千年単位で生じた)価値観に翻弄されてきた。価値観なんて未熟な若 造なんに。言語的論理、価値観を教えこむ学校教育は大切と多くの人が思い込む。ほじゃんが目標のない 地形に住むエスキモーや砂漠の民は日月星の見えん天候の時でも帰る家の方向が渡り鳥のようにわかる。 その本能が教育を受けると失われていく。磁石、GPSが使えればいいさと。本能(家に帰れる)と教育 (金儲け) とどっちが大事?本能と両立する教育はある?

電話相談員募集

あなたも相談員になりませんか。

電話相談員養成講座の研修参加に関する問合せは、常時受けつけております。事務局へお問い合わせください。

(事務局) つくば TEL 029 - 852 - 8505 (平日 9 時~17時)

FAX 029 - 852 - 8355

水 戸 TEL 029 - 244 - 4722 (平日12時~16時)

FAX 029 - 350 - 1055

ホームページ http://www.iid.or.jp

受信状況

1985年6月1日~2019年9月末現在

総受信件数

939,968件

うち当期受信件数 (2019年4月1日~2019年9月末現在)

9,731件

男 4,776 件 女 4,955 件

フリーダイヤル受信状況		男(自殺傾向)	女(自殺傾向)	受信件数
2019年	4月10日	男 26(2)	女 25 (2)	51 (4)
	5月10日	男 15(7)	女 23 (6)	38 (13)
	6月10日	男 35(8)	女 26 (8)	61 (16)
	7月10日	男 27(5)	女 19(4)	46 (9)
	8月10日	男 47(11)	女 17(3)	64 (14)
	9月10日	男 35(8)	女 23 (4)	58 (12)

茨城いのちの電話では毎月10日午前8時から11日午前8時まで、自殺予防いのちの電話フリーダイヤルを受けています。

公益財団法人 木口福祉財団 より、助成金をいただきました。

▶公益財団法人木口福祉財団とは?

財団の設立者木口衞さんは、株式会社ワールドの創始者です。 阪神淡路大震災後、障害者の関連施設への助成のためにこの 財団を立ち上げました。所在地は、兵庫県芦屋市です。

今年度は、日本全国の団体のために総額で約 4500 万円の助成を決定されました。

現在研修用に使用している PC(windows7) の老朽化および保守サービスの打ち切りが間近ということもあり、新しい PC の購入に迫られておりました。そのため、今年4月に木口福祉財団に初めて助成申請を提出した結果、9月に34万円のご助成をいただくことが出来ました。

消費税値上げの前にと早速 PC3 台を購入し、水戸とつくばに設置いたしました。

すでに研修時(グループ研修・養成講座講義・スーパービジョン)のファイルやデータに活用しています。



木口福祉財団の「まもりん」は創始者の方のキャラクターです。

木口福祉財団 HP www.kiguchi.or.jp

後援会活動				
2019年	5月8日	卓話 (日立北ロータリークラブ)		
	5月9日	卓話 (鹿嶋ライオンズクラブ)		
	5月21日	理事会		
	8月7日	後援会合同会議		
	8月24日	まつりつくばバザー		
	9月19日	卓話(つくば学園ロータリークラブ)		

理事会、 評議 員会、連宮協議会等				
2019年	4月15日	運営協議会		
	5月20日	理事会、評議員選任解任委員会、 運営協議会		
	6月10日	運営協議会		
	6月17日	評議員会、理事会		
	7月22日	運営協議会		
	9月2日	運営協議会		

〈編集後記〉

LGBT の特集も3回目を迎えました。誰にも悩みを打ち明けられずに苦しんでいる方が、少なくなるような社会を築きたいものです。新しい時代の令和元年も暮れようとしています。皆さまにとってどのような一年だったでしょうか?

X

災害に遭われた方々には、くれぐれもお見舞い申し上げます。来年こそは、平和な年でありますように。

社会福祉法人
茨城いのちの電話

発行人: 幡谷 浩史

編集:茨城いのちの電話広報委員会

表紙絵:岡崎 祐一

事務局:〒305-8691 茨城県筑波学園郵便局私書箱60号

TEL 029-852-8505

題字:長野 加与

ホームページ:http://www.iid.or.jp

FAX **029-852-8355**

